

第1学年 国語科学習指導案

指導者 益子 ひかり

1 単元名 石つかのしぜんをかんさつして、キャストにつたえよう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「身の回りの動植物を観察したり調べたりしてメモをとり、文にまとめる」ことを位置付けた。まとめた文は、遠足で森の動植物について教えてくださったキャストの方に届けることとする。題材としては、実物を見たり触ったりしながら、形状や様子などを観察することができる身の回りの動植物とした。観察したことを表現するためには、いろいろな言葉を見付け、集めることが必要となる。更に、キャストの方に自分たちの身の回りで見付けた動植物を観察して表現する活動は、単元を通しての意欲となるであろう。そして、観察したことから生じる疑問やもっと詳しく知りたいことなどを解決するために、人に聞いたり本で調べたりすることで、複数の情報を関連付けた活動につなげができると考える。これらのことから、第1学年及び第2学年「B書くこと」(1)ア「経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること」、ウ「語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと」を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1)児童観

本学級の児童は、1学期に平仮名を覚え、文字を正しく書いたり短い文を書いたりする学習をしてきた。「こんなことしたよ」では、相手意識、目的意識をはつきりさせて表現する学習をした。また、「えにっきをかこう」では、毎日の出来事の中から題材を見付けて文章を書いてきた。それらの学習で、助詞や句読点に注意し、一文から二文、三文へと量を増やすことができた。2学期になり、片仮名や漢字を学習し、文字や文を書くことに意欲を示している児童が多く見られるようになってきたが、下記のアンケート結果から分かるように、書くことを面倒がったり、書くことが嫌いな理由として「書き方が分からない」と答えたりした児童もいた。そのため、日記や生活科で簡単な視点を決めて書いたりすることを通して、題材を決めて文章を書く活動に慣れるようにしてきた。それでも、生活経験が未熟で語彙数が少ないため、色、形、音、におい、気持ちなどを表現するときには、決まった言葉しか出てこないことが予想される。

書くことについてのアンケート (第1学年*組 *名)

平成*年*月*日実施

○ 国語の学習で書くことは好きですか？

・好き *名 どちらかといえば好き *名 どちらかといえばくらい *名 くらい *名

○ 「どちらかといえばくらい」、または「くらい」と答えたわけ

・書き方が分からない *名

書くことに関する児童の実態

・書き方に合わせて、様子や分かったことが書けている *名

・書き方に合わないところがあるが、様子や分かったことが書けている *名

(2)教材観

本単元では、観察したことや人に聞いたり本で調べたりしたことを表現すること、文のつながりや句読点の打ち方に気を付けて表現すること、文章を読み直して正しく表現することを学習していく。観察をする中では、「どうしてだろう」「ふしぎだな」という疑問や、「もっと知りたい」という気持ちがわき、人に聞いたり本で調べたりすることが予想される。そこで、「みてみたら」「さわってみたら」「～ということがわかりました」など、観察したことや気付きを表す言葉、「～と〇〇さんがいっていました」「本には～とかいてありました」など、人に聞いたり本で調べたりしたことを表す言葉を意識して文章を書けるようにしたい。

(3)指導観

遠足で行った森の動植物について、専門的な内容を分かりやすく説明してくれたキャストの方に、自分たちの住む石塚学区の動植物について観察したり、調べたりしたことを分かりやすく表現し、読んでもらうことを目的とする。そのため、単元を通して、遠足で行った森にあった物を基に、いろいろな動植物を観察したいという意欲をもち、書く学習に取り組むと考えられる。しかし、1年生の児童の語彙数には限りがあるので、国語の授業時間だけでなく、様々な機会をとらえ語彙数を増やすように、「お宝カード」に書かせておき利用していきたい。

まず、文章を書く際には、観察したことから複数の発見メモを書かせ、その中から自信のあるものを選択できるようにする。さらに、観察したことから生じた疑問やより詳しく知りたいと思ったことについては、人に聞いたり本で調べたりして分かったことをまとめ、自分の観察したことに書き加えるようにする。なお、人に聞いたことと本で調べたことについては、1年生という実態を踏まえ、文末表現を押さえることで、違いを意識できるようにしたい。

また、授業時間だけでなく、朝のミニ作文の時間などを使って語彙集めをしたり、分からぬことを本で調べたりしていく。更に、ペアやグループで交流する時間を設け、メモやメモから書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う活動を通して、自分の伝えたいことを文章に書くことができた達成感を味わわせたい。

4 単元の目標

- 身の回りの動植物の様子を表現するために、必要な情報を集めて、意欲的に書こうとする。
(関心・意欲・態度)
- 書こうとする題材を観察したり、調べたりしたことを文章に書くことができる。
(書くこと)
- 句読点やかぎ、助詞を文の中で正しく使うことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・身の回りの動植物の情報を集め、意欲的に書こうとしている。	・書こうとする題材をよく観察して書いている。 ・語と語、文と文の続き方に注意し、調べたことをつながりのある文に書いている。	・句読点やかぎ、助詞を正しく使って文章を書いている。

6 単元の指導計画（7時間扱い）○は本時

主な学習活動	主な評価
第1次 1 「身の回りの動植物を観察し、分かったことを文章に書く」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	・石塚の動植物を観察して分かったことを、意欲的に文章に書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
第2次 1 グッドモデルを示し、文章の構成や書き方を知る。 2, 3 メモ（付箋・短冊）の書き方を知り、観察したり調べたりしたことをカードに書く。 4 付箋メモを基に、観察したことを文に書く。 ⑤ 短冊メモを基に、人に聞いたことや本で調べたことを文に書く。	・「はじめ」「中」「おわり」の文章構成に気付いている。 (書く能力) ・メモに書く必要なことを知り、観察したことや調べたことなどをカードに書いている。 (書く能力) ・観察したことを、文に書いている。 (書く能力) ・人に聞いたことや本で調べたことを、文に書いている。 (書く能力)
第3次 1 文章を読み返して、間違いを直し清書したり、グループで感想を伝えたりする。	・句読点やかぎ、助詞の使い方を理解し、文章の誤りを書き直している。 (言語についての知識・理解・技能) ・表現のよさに気付き、感想を伝えている。 (書く能力)

7 本時の学習

(1) 目標

短冊メモを基に、人に聞いたり本で調べたりしたことを文に書くことができる。 (書くこと)

(2) 準備・資料

学習計画表、メモ用紙、振り返りカード、お宝カード、短冊用紙

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>きいたりよんだりしたことを、ぶんにかこう。</p> <p>・本時の学習の流れを確認する。</p> <p>2 メモを基に、人に聞いたり本で調べたりしたことを、文にする書き方を話し合う。</p> <p>①「きいたこと」のポイント 「。」と、○○がいっていました。(人) ②「よんだこと」のポイント ～と、本にかいてありました。(本)</p>	<ul style="list-style-type: none">観察に関連する他の情報（人に聞いたり本で調べたりした情報）を取り入れて書くことを確認し、学習に対する意欲がもてるようとする。本時の学習計画を掲示し、学習の流れを確かめることで、学習の見通しをもって活動に取り組めるようとする。
<p>3 メモを基に、人に聞いたり本で調べたりしたことを短冊用紙に書く。</p> <p>(1) メモを見ながら書く。</p> <p>「どんぐりは食べられるよ。」 と、おとうさんがいっていました。</p> <p>どんぐりにあいているあなは、むしがあけましたと、本にかいてありました。</p> <p>(2) 自分の文を読み直し、二つのポイントの書き方ができているか確かめる。</p> <p>(3) ペアの友達と読み合い、友達の書き方のよいところを伝える。</p> <p>・きいたことに、かぎかっこがついていてよかったですとおもいます。 ・おもったことがかけていて、よかったです。</p>	<ul style="list-style-type: none">メモをそのまま提示し、このままでは人に聞いたことや本で調べたことが読み手に伝わらないことを確認する。人に聞いたことと本で調べたことでは、文末表現が違うことを押さえる。本で調べたことのメモを文に書くときは、句点は不要であることを押さえる。 <ul style="list-style-type: none">メモと短冊用紙の色は、人に聞いたことは黄緑、本で調べたことは青というように同じ色にすることで、文末表現の違いを意識できるようする。書き終わった児童には、他のメモを使った文を書くように促す。書き方に不安を抱く児童には、教師のモデル例を参考に文章を書くように助言する。 <ul style="list-style-type: none">自分の間違いに気付いた児童には、「お宝カード」を活用して、表記の仕方の確認をするように助言する。書き終わった自分の文章が二つのポイントに合っているか、読み直すよう助言する。読み直しが終わった児童には、感想を書くよう促す。友達の文のよいところを見付け、なぜよいのかの理由も伝えるように助言する。

評価 (書くこと)
人に聞いたことや本で調べたことを
文に書いている。 (短冊用紙)

4 友達の文章のよさを見付ける。

「まつぼっくりは、水にぬれるとしほむよ。」
と、おかあさんがいっていました。

どんぐりは、土の上においておくと、はる
にめが出ますと、本にかいてありました。

5 本時の学習を振り返る。

- (1) 学習の振り返りを書く。
- (2) 振り返りを発表する。

- ・人からきいたことをぶんにかけた。
- ・本でしらべたことをぶんにかけた。

・モデル例と同じように書けているところを確認し、互いに伝え合うようとする。

・メモを基にできあがった短冊用紙を読み、文の書き方でよいところを話し合い、自分の文にも参考にすることができるようとする。

・学習を通して、できるようになったことや分かったこと、次の学習でしたいことについて振り返りカードに書かせることで、これから学習につなげたい。